

外為マンスリービューⅠ 北米編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/10/03

ドル/円は「底固め」の動き

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	11月初旬のビッグイベントに向けて 予想レンジ: 99.500~104.000円	2-3
<u>カナダ/円</u>	➡	OPEC合意の実現性 予想レンジ: 74.000~79.500円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



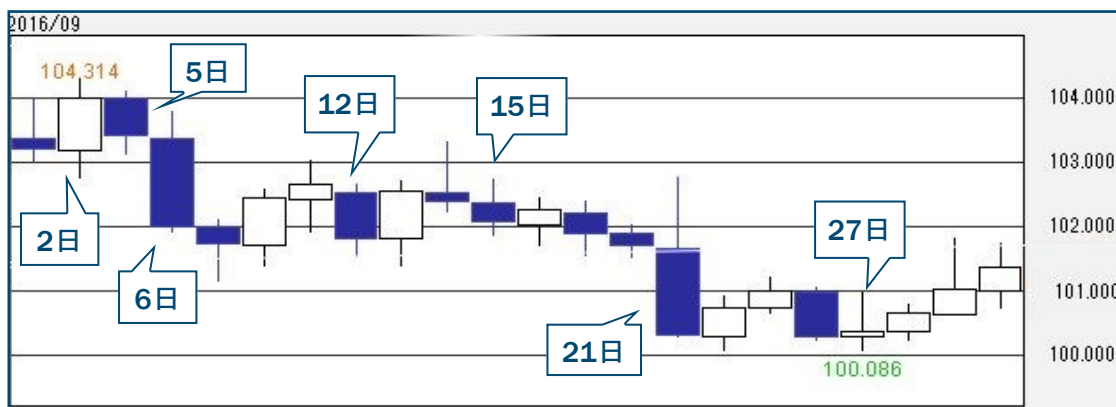
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 9月の推移

USD/JPY

9月のドル/円相場は100.086～104.314円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.0%の下落(ドル安・円高)となった。米国では主要経済指標に弱めの結果が続いた事などから利上げ観測が後退。一方、日本では黒田日銀総裁が7月に示した「総括的な検証」を巡る不透明感が広がった。上旬から中旬にかけては、そうした日米双方の金融政策に対する思惑によって、ドル安・円高基調が続き、21日の日米同日金融政策発表(日銀は結果的に追加緩和を見送り、FOMCは利上げを見送った)を受けて100円台へと下落した。その後も、独最大手のドイツ銀行の財務健全性に不安が持ち上がった事などから上値は重かったが、100円の大台はなんとか維持して101円台前半で取引を終えた。



四本値

OPEN	103.396
HIGH	104.314
LOW	100.086
CLOSE	101.381

2日	米8月雇用統計は非農業部門雇用者数が15.1万人増、失業率が4.9%、平均時給の前月比は+0.1%といずれも予想(18.0万人増、4.8%、+0.2%)に届かなかった。これを受けて利上げ観測が後退するとドル売り主導で102.70円台に急落したが、利上げ観測の後退を好感して米国株が上昇すると円売り主導に切り替わり104.314円まで上値を伸ばした。
5日	黒田日銀総裁が講演で「マイナス金利は金融機関の収益に与える影響が相対的に大きい」などと、マイナス金利の副作用に言及すると、追加緩和観測が後退して円買いが活発化した。
6日	米8月ISM非製造業景況指数が51.4と予想(54.9)を大きく下回り2010年2月以来の水準に低下した事を受けてドル売りが強まった。なお、1日に発表された米8月ISM製造業景況指数が49.4と節目の50.0を割り込んでいた事もあって、米国景気の先行きに不透明感が広がり下げ幅が大きくなった。
12日	FOMC前のブラックアウト期間(メンバーによる金融政策に関する発言が禁止される期間)入り最後の当局者発言として注目を浴びた講演でブレイナードFRB理事が「緩和解除で慎重さ維持を」「予防的な引き締め論拠は弱い」「労働市場の一段の改善を閉ざす政策は賢明ではない」などと早期利上げに否定的な見解を示すとドル売りが強まった。
15日	米8月小売売上高が前月比-0.3%と予想(-0.1%)以上に減少。自動車を除いた売上高も前月比-0.1%と予想(+0.2%)に反して減少した。これを受けてドルが売られると一時102円台を割り込んだ。
21日	日銀がこれまで3年半の金融緩和に関する「総括的な検証」を行った上で、「金融緩和強化のための新しい枠組み」として「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を発表。政策金利は-0.10%に維持、10年債を0%前後に誘導、80兆円としていた従来の長期国債買入れ目標はメドに格下げ、などとした。マイナス金利の深堀りを見送った事を好感して日本株が上昇する中、102.70円台まで上昇した。しかしその後は、黒田日銀総裁が国債買入れ額が減少する事もあり得ると発言した事などから「実質的な量的緩和縮小ではないか」との見方が徐々に広がり、円を買い戻す動きが強まった。その後、米FOMCは予想通りに政策金利の据置き(0.25%-0.50%)を発表。声明では「利上げの根拠は強まったが、しばらく景気状況を見守る」などとし、決定が賛成7、反対3であった事も明らかとなった。また、金利見通しでは2017年末の政策金利予想(中央値)を1.125%とし、0.25%の利上げを2回しか見込んでいない事が示された。これを受けて100.30円前後までドルが売られた。
27日	米大統領選の第1回候補者討論会(現地26日夜)が行われ、民主党クリントン候補が共和党トランプ候補に対して優勢に議論を進めたとの見方が広がった。討論会前に一時100.086円まで下落する場面もあったが、極端に保護主義的な主張を展開するトランプ候補の劣勢を市場は「トランプ・リスク」が後退したと受け止めて円安(ドル高)に振れた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.8053%
HIGH	0.8232%
LOW	0.7137%
CLOSE	0.7619%

米10年債利回

OPEN	1.5783%
HIGH	1.7498%
LOW	1.5170%
CLOSE	1.5944%

日経平均

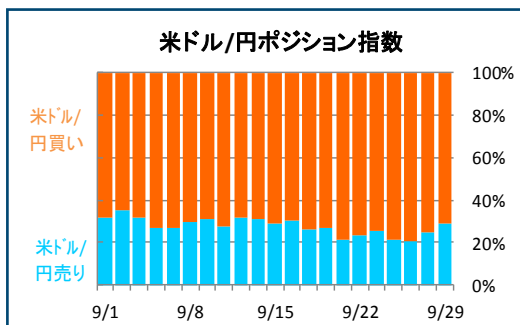
OPEN	16885.16
HIGH	17156.36
LOW	16285.41
CLOSE	16449.84

NYダウ平均

OPEN	18396.57
HIGH	18551.54
LOW	17992.21
CLOSE	18308.15

9月のポジション動向

10月の日・米注目材料



- ・日銀短観(3日)
- ・9月米ISM製造業景況指数(3日)
- ・9月米ADP全国雇用者数(5日)
- ・8月米貿易収支(5日)
- ・9月米ISM非製造業景況指数(5日)
- ・9月米雇用統計(7日)
- ・第2回米大統領候補討論会(9日)
- ・米FOMC議事録(12日)
- ・9月米小売売上高(14日)
- ・9月米鉱工業生産(17日)
- ・9月米消費者物価指数(18日)
- ・9月米住宅着工件数(19日)
- ・第3回米大統領候補討論会(19日)
- ・9月米中古住宅販売件数(20日)
- ・10月米消費者信頼感指数(25日)
- ・9月米新築住宅販売件数(26日)
- ・9月米耐久財受注(27日)
- ・9月日本消費者物価指数(28日)
- ・7-9月期米GDP・速報値(28日)

10月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

10月のドル/円相場は、11月上旬に予定されている日銀金融政策決定会合や米連邦公開市場委員会(FOMC)、米大統領選挙を睨んだ展開となりそうだ。

11月1日の日銀金融政策決定会合で発表する「展望レポート」では、物価見通しが下方修正される公算が大きいとされ、同時に追加緩和に動くとの見方がくすぶっている。お馴染みの「観測報道」に振り回される展開が見込まれる。

11月2日のFOMCでは、利上げの可能性は低い(米短期金利市場が織り込む利上げの確率は9月末時点で10.3%)と見られているが、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長は、前月のFOMC後の会見で「常にそうであるように11月も新たなデータを再評価し、行動が正当化されるか判断する」と述べている。10月に発表される主要な米経済指標の結果に良好な内容が揃えば利上げ観測が再燃しても不思議ではないだろう。前月発表分がやや弱めだった米9月雇用統計は特に重要な意味を持ちそうだ。

11月8日に投開票される米大統領選の行方も重要な手掛かりとなるだろう。9月26日の第1回討論会後には、クリントン候補が優勢だったとの見方から株高・円安に振れた。市場がトランプ候補の大統領就任をリスクと捉えている証左であり、今後(10月9日に第2回討論会、19日に第3回討論会)も同様の反応が見込まれる。その他、両候補の支持率に関する世論調査の結果も注目されよう。

また、9月のドル/円相場は陰線引けではあったが、心理的な節目の100円を割り込むことなく下げ渋った。それ以前も7月から3か月連続で100円前後でサポートされており、チャート面からは「底固め」の動きと読み取れる。(神田)

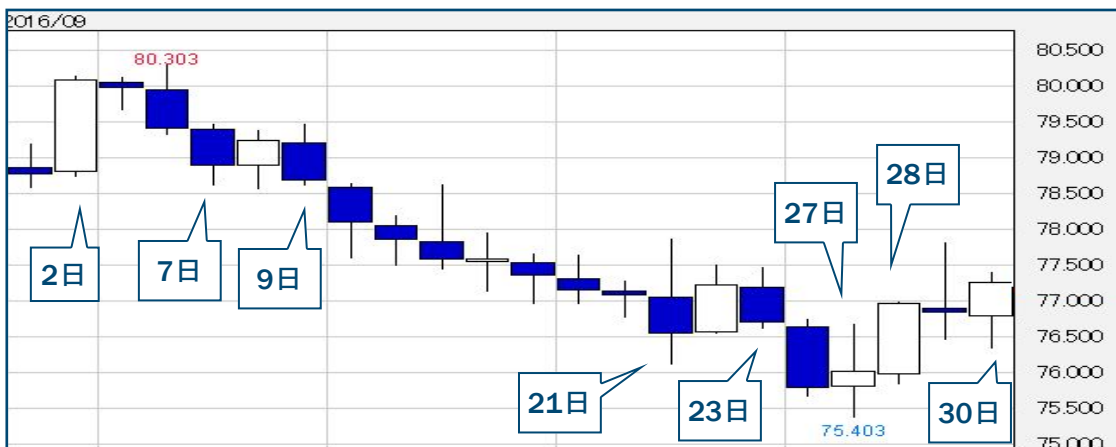
(予想レンジ99.500~104.000円)

カナダ/円 9月の推移

CAD/JPY

9月のカナダ/円相場は75.403～80.303円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.1%の下落(カナダドル安・円高)となった。

原油相場が軟調な動きとなる中、カナダドルは弱含みで推移。27日に2012年6月以来となる75.403円の安値を記録した。ただ、石油輸出国機構(OPEC)が予想外の減産合意を発表してNY原油先物が急騰すると、下げ幅をやや縮小した。また、米利上げ見送りや、米大統領候補者討論会でのクリントン氏優勢などから、リスク回避ムードが和らいで株価が上昇した事も追い風となった。



四本値

OPEN	78.876
HIGH	80.303
LOW	75.403
CLOSE	77.283

2日	予想より弱い結果となった米8月雇用統計を受け、米早期利上げ観測が後退したとの見方からNYダウ平均とNY原油先物が上昇すると、カナダ/円は80.147円まで値を上げた。
7日	加中銀(BOC)は理事会で政策金利の据え置き(0.50%)を決定。声明で「インフレのリスクは若干下方方向に傾いた」などと指摘した事が明らかとなり、カナダ/円は一時78.641円まで下落。ただ、「カナダ経済は4-6月期に縮小したが、BOCは年後半に大きく反発すると予想」「7-9月期は石油生産の回復に伴って反発し、10-12月期も潜在成長率以上を維持するだろう」などの見方も示された事から、売りの勢いが一服すると下げ幅を縮小した
9日	米9月利上げの可能性を嫌気して米ドル高が進み、原油安・株安となると、カナダ/円は78.646円まで下落した。なお、加8月雇用統計は失業率が7.0%、就業者数は2.62万人増と強弱まちまち(予想:7.0%、1.40万人増)であった。
21日	日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を発表すると、利下げや社債買い入れ増額などの追加措置がなかった事から、カナダ/円は76.50円台まで下落した。ただ、事実上の無期限緩和である点が見直された事などから77.878円まで反発。マイナス金利が深掘りされなかったため金融株を中心に株価が上昇した事も追い風となった。しかし、黒田日銀総裁が「国債買い入れは増『減』もあり得る」と発言した事などから再び円買いが強まると、76.10円台まで反落した。
23日	加8月消費者物価指数が前年比+1.1%、コア・前年比+1.8%と予想(+1.4%、+2.0%)を下回った。同時刻に発表された加7月小売売上高は前月比-0.1%、輸送用機器を除くと前月比-0.1%と予想(+0.1%、+0.5%)外の減少となった。これらを受けてカナダドル売りが強まった。
27日	日経平均の下げに連れてカナダ/円は2012年6月以来となる75.403円まで下落。ただ、第1回米大統領候補者討論会においてクリントン氏優勢と見られる中で日本株が反発すると、一時76円台を回復した。
28日	石油輸出国機構(OPEC)が非公式会合を行い、生産量を現在の日量3324万バレルから3250万-3300万バレルに削減する事で合意。事前予想では合意困難との空気が支配的だった中、この決定を受けてNY原油先物が48ドル台前半に急騰すると、カナダ/円は77円目前まで上昇した。
30日	加7月国内総生産(GDP)が前月比+0.5%と予想(+0.3%)を上回った事から、カナダ/円は77.411円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

加10年債利回り

OPEN	1.069%
HIGH	1.253%
LOW	0.943%
CLOSE	0.996%

NY原油

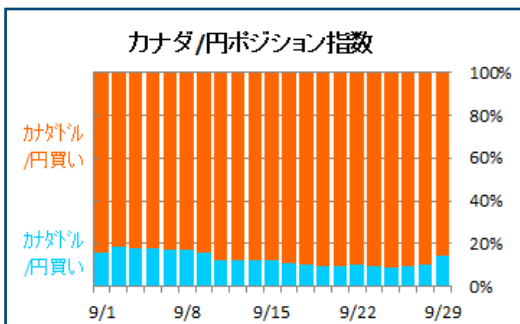
OPEN	44.85
HIGH	48.32
LOW	42.55
CLOSE	48.24

NYダウ平均

OPEN	18396.57
HIGH	18551.54
LOW	17992.21
CLOSE	18308.15

9月のポジション動向

10月のカナダの注目材料



- ・8月加貿易収支(5日)
- ・9月加雇用統計(7日)
- ・9月加Ivey購買部景況指数(7日)
- ・9月加住宅着工件数(11日)
- ・8月加新築住宅価格指数(13日)
- ・BOC政策金利発表(19日)
- ・8月加小売売上高(21日)
- ・9月加消費者物価指数(21日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

10月の見通し

10月も、原油相場に注目したい。先月の減産合意報道を受けてNY原油先物は先月29日に約1カ月ぶりとなる48ドル台を回復してはいるが、各国の割り当てなど詳細は11月のOPCE総会での合意を目指すとしており、実現性については不透明な部分がある。合意難航が伝わると原油安を招いてカナダドルに下落圧力が掛かる可能性がある。関連報道に引き続き注意が必要だ。

テクニカル面では、一目均衡表を見ると日足・週足いずれも三役逆転が点灯しており、下落トレンドが継続している事を示している。週足の転換線について、9月の高値(80.303円)と安値(75.403円)を更新しなければ今月は77.853円である。仮に同線を突破したとしても、下値支持に変えられないようならば、再び下押し可能性が高いと見る。9月安値を下抜けると、次の目処として2012年6月に付けた直近安値(74.400円)が挙げられる。

なお、今月の加中銀(BOC)理事会について、本稿執筆時点では政策金利の据え置きが予想されている。事前予想通りとなる場合、カナダ/円は無風通過もあるだろう。(川畑)

(予想レンジ: 74.000~79.500円)